



## 「神の計画の中を歩む教会」

「あなたがたのために立てている計画を、  
わたしはよく知っている。」（エレミヤ 29:11）

## 祈 祷 題 目

1. 神の御心を求める礼拝と祈りが満ちる教会。
2. 次世代(子ども・若者)が主に召され、信仰に立つ祝福。
3. 福音宣教に献身する者・次世代リーダーが起こされるように。

飯田福音教会は、  
イエス・キリストを主と告白する者たちが、  
御言葉と祈りを中心に共に歩む信仰の共同体です。

私たちは、教会を建物や制度としてだけでなく、  
神の救済のご計画の中で召され、  
生かされている「神の民」として理解しています。

教会の中心は常にイエス・キリストご自身であり、  
すべての礼拝、教育、奉仕、宣教は、  
イエス・キリストの十字架と復活の福音に基づいて行われます。

2026年、私たちは「神の計画の中を歩む教会」  
という信仰告白のもと、主の導きに信頼し、御心を求めて歩むことを  
大切にしています。

教会は、  
礼拝と祈りを通して神に向き合い、  
次世代を育て、  
地域と世界に仕えるために遣わされる宣教的共同体です。

## 2026年教会要覧発行にあたって

本要覧は、飯田福音教会の信仰、歩み、組織、奉仕、そして将来への祈りを分かち合うために作成されました。教会に連なるすべての方々、また新しく教会を訪れるの方々にとって、本要覧が信仰理解と交わりの助けとなることを願います。

## 年間聖句

「わたし自身、あなたがたのために立てている計画をよく知っている【主】のことば。それはわざわいではなく平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」  
(エレミヤ書 29 章 11 節)

## 教会の目標

「神の計画の中を歩む教会」

この目標は、人間の計画や成功ではなく、神の主権のご計画の中に教会が置かれているという信仰告白に基づいています。

## 教会祈祷題目

### ① 神の御心を求める礼拝と祈りが満ちる教会

礼拝を教会の中心とし、祈りを力の源として、御言葉と聖霊によって形づくられる共同体を目指します。

### ② 次世代(子ども・若者)が主に召され、信仰に立つ祝福。

子どもと若者がイエス・キリストを主と告白し、信仰の土台に立って将来を担う世代として育てられるよう祈ります。

### ③ 福音献身する者・次世代リーダーが起こされるように

教会が「遣わす共同体」として整えられ、地域と世界のために仕えるリーダーが起こされるよう願います。

## 担当牧師 挨拶



柳 承吉(ヤナギ ショウキチ)牧師

主イエス・キリストの恵みと平安が、愛する教会の皆さまお一人おひとりに豊かにありますよう祈りつつ、2026年の歩みを共に始められることを、心から主に感謝いたします。

今年、私たちの教会が主の前に掲げる信仰のテーマは「神の計画の中を歩む教会」です。エレミヤ書 29 章 11 節で、主は明確に宣言されました。「あなたがたのために立てている計画を、わたしはよく知っている。」この御言葉は、イスラエルが捕囚と混乱のただ中にあった時に与えられた約束であり、私たちの人生のどの季節にも、神が主権をもって導いておられることを告げています。

私たちは告白します。

主こそ歴史を治め、教会を建て、私たち一人ひとりの歩みを導かれる全能の神であるとして、主がご自身の計画の中に私たちを招き、使命を与え、共に歩んでくださることを信じます。

この確信の上に立ち、今年の祈禱題目を次の三つと定めます。

### 1. 神の御心を求める礼拝と祈りが満ちる教会

礼拝は教会の中心、祈りは力の源です。人間の思いではなく、「主の御心が天でなるように地にもなる」ことを求め、御言葉によって形づくられ、聖霊によって導かれる礼拝へと進みます。

2. 次世代(子ども・若者)が主に召され、信仰に立つ祝福。

次の世代こそ、主が将来のために備えておられる尊い器です。彼らがキリストを主と告白し、信仰の土台を据え、「主にあって勇敢に立つ世代」として起こされるよう祈ります。

3. 福音宣教に献身する者・次世代リーダーが起こされるように

教会は遣わす共同体です。福音は「受ける」だけではなく、「携えて出て行く」ものです。主が働き手を起こし、福音宣教へと押し出し、また地域と世界に仕えるリーダーを聖霊の油注ぎをもって育ててくださるようお願い求めます。

2026年、私たちは再び決意します。教会は私たちの計画ではなく、「神の計画」の中に立つものであることを。その計画は、恵みと真理と希望の中にあります。

どうか今年、主が私たちの教会を

- ・祈りの家として
- ・次世代を育てる家として
- ・宣教に遣わされる家として

新しく建て上げてくださいますように。

主は忠実なお方です。その御手の中で、2026年の歩みが祝福に満ち、皆さまの日々がキリストの栄光を現すものとなるよう、心よりお祈り申し上げます。

2026年1月1日

## 教会の組織と奉仕

牧師

担当牧師 柳 承吉

副牧師 柳 智愛

勸士

北原 孝子／鈴木 真由美／森本 たい子

執事

〈男性〉鈴木 浩三／熊谷 茂美／松島 浩一

〈女性〉高木 はつえ／北原 明子／松島 スヤンティ／平澤 寿子

島村 由美子／柳 澄香／韓 芽唯

## 牧会運営会議

議長:柳 承吉

書記:韓 芽唯

正会員

柳 智愛、熊谷 茂美、高木 はつえ、松島 スヤンティ、柳 澄香

松島 浩一、北原 孝子、北原 明子、鈴木 浩三、韓 芽唯

## 教会学校・学生会

教会学校(幼稚部・小学部)・学生会(中学部・高校部)

総務・教師:柳 澄香

教師:松島 スヤンティ、韓 芽唯、平澤 寿子

## 各部の働き

財政部:北原 明子、柳 澄香

礼拝部(美化・生花):北原 孝子、高木 はつえ

案内部:北原 明子

放送部:松島 浩一

奉仕部(駐車場):鈴木 浩三

施設管理部:熊谷 茂美

賛美部:韓 芽唯、柳 澄香

インマヌエル聖歌隊

賛美指導:高木 はつえ

礼拝奉仕者

賛美リーダー・礼拝伴奏

柳 澄香、韓 芽唯

## 教会の歩み(沿革・節目)

創立と祈りの土台(1994年)

飯田福音教会は、1994年に「イエス・キリスト飯田福音教会」として開会しました。創立当初から、教会は祈りと御言葉を中心とする共同体として歩み始め、祈祷会など、継続的な祈りの集会が設けられました。この時期に、聖歌隊の発足、牧会運営会議の開始、教会ニュースの発行など、教会形成の基盤が整えられていきました。

成長と宣教の広がり(1995年～1999年)

1990年代後半には、礼拝・教育・宣教の各分野が大きく発展しました。早

天礼拝や聖会、子ども・学生向けの働き、聖書学び会などを通して、信徒の霊的成長と次世代育成が進められました。また、イースター、クリスマス、野外礼拝、子ども集会、コンサートなどを通して、地域社会に向けた福音的証しが継続的に行われました。この時期、信州のリバイバル為の連携も始まり、教会は地域を越えた祈りと宣教の流れの中に置かれていきました。

### 聖殿建築と制度的確立(1998年～2001年)

1998年には新聖殿建築に向けた特別祈禱が始まり、起工礼拝、定礎式を経て、新聖殿入堂礼拝・献堂式が行われました。この出来事は、教会にとって大きな節目であり、「祈りによって建てられる教会」という信仰告白を形として示す出来事となりました。さらに2001年には、宗教法人認可を受け、教会は公的にも整えられた組織として新たな段階へと進みました。

### 教育・社会奉仕・国際的広がり(2002年～2010年)

2000年代に入ると、教会は教育・福祉・社会奉仕の分野においても働きを広げていきました。子どもキャンプ、学生会、聖徒教育、宣教セミナーなどを通して、信仰の継承とリーダー育成が進められました。また、施設訪問、福祉活動、地域行事への参加、国際宣教・短期宣教などを通して、教会は地域と世界に仕える教会として歩みを深めていきました。

この期間には、納骨堂の完成、教会施設の整備、関連福祉施設の働きなども展開されています

### 試練の中での継続と希望(2011年～2024年)

2010年代以降、社会環境の変化や困難の中にあっても、教会は礼拝と交わりを大切にしました。特に近年は、感染症の流行や社会不安の中で、集まって礼拝し、祈り、支え合う教会の本質が改めて確認される時期となりました。子ども祝福、洗礼式、収穫感謝礼拝、クリスマス行事、継続的な地域伝道(キムチ伝道など)を通して、教会は変わらず福音を証し続けています

現在、そして未来へ

飯田福音教会は、1994年の創立から現在に至るまで、祈りと御言葉、宣教と次世代育成を柱として歩んできました。その歩みは、決して人の計画によるものではなく、「神の計画の中を歩む教会」として導かれてきた歴史です。これからも教会は、祈りの家として、次世代を育てる家として、宣教に遣わされる家として、主が与えてくださる使命に忠実に歩み続けていきます。

## 教会の基本理解

教会とは何か

教会とは、建物や制度そのものだけではなく、イエス・キリストを主と告白する者たちの共同体です。新約聖書において「教会(ἐκκλησία)」とは、「神によって呼び集められた者たち」を意味し、それはキリストの十字架と復活によって贖われ、聖霊によって一つにされた神の民を指します。教会は人間の発想や宗教的必要から生まれた組織ではなく、神ご自身がご計画の中で建てられる救済史的共同体です。

主イエス・キリストは、「この岩の上に、わたしの教会を建てる」と語られ(マタイ16:18)、教会の唯一の土台がキリストご自身であることを明らかにされました。したがって教会は、キリストを頭とする「キリストのからだ」であり、御言葉によって生かされ、聖霊の働きによって導かれ、神の国の到来をこの地に証しする存在として、この世に遣わされています。

教会の使命とビジョン

教会の使命は、神の救済の御業を宣べ伝え、それに生きることです。それは単に個人の救いを扱う宗教活動ではなく、イエス・キリストを通して成し遂げられた神のご支配(神の国)を、言葉と生き方によって証しすることにあります。

教会は、御言葉を正しく宣べ伝え、礼拝と祈りを中心に生き信徒を弟子として育て世に遣わされる共同体として存在します。

私たちの教会のビジョンは、「神の計画の中を歩む教会」として、神の主権と導きを信頼し、時代や状況に振り回されることなく、救済史の流れの中で与えられた使命に忠実であることです。

教会は「集まる」だけでなく、「遣わされる」存在です。礼拝から始まり、宣教へと向かうこの流れの中で、教会は地域と世界に仕えるために建てられています。

### 信仰告白・教理的立場

飯田福音教会は、聖書を唯一無二の信仰と生活の規範とする、福音派・正統キリスト教会です。

私たちは次のように告白します。

聖書は、神の靈感によって書かれた神の言葉であり、信仰と教会の最終的権威であること。

イエス・キリストは、真の神であり真の人であり、十字架と復活によって救いを完成された唯一の救い主であること。

救いは、行いや功績によるのではなく、神の恵みによる信仰によってのみ与えられること。

聖霊は、今日も教会と信徒のうちに働き、御言葉を理解させ、聖化へと導かれるお方であること。

また、私たちは教会をイスラエルに始まり、キリストにおいて完成し、異邦人を含めて一つとされた「神の民」として理解し、旧約と新約を分断するのではなく、救済史の一貫性の中で聖書を解釈する立場に立っています。

## 教会が大切にしている価値観

### キリスト中心

すべての説教、教育、奉仕、宣教はイエス・キリストを中心として行われます。

### 御言葉と祈り

教会の力は戦略ではなく、御言葉と祈りにあります。

### 救済史的視点

私たちは、神が歴史を導いておられることを信じ、教会をその大きなご計画の中で理解します。

### 次世代の信仰継承

子ども・若者は教会の将来だけではなく、今を共に生きる神の民です。

### 宣教的生き方

教会は内向きの共同体ではなく、世に遣わされる宣教共同体です。

## 礼拝と霊的生活

### 主日礼拝について

主日礼拝は、教会生活の中心であり、復活された主イエス・キリストが、ご自身の民を招き、出会われる場です。礼拝は、人が神に近づく行為である以前に、神が先に私たちを招き、語り、恵みを与えてくださる出来事です。

主の日(主日)に教会が集うのは、復活の出来事を記念し、新しい創造の始まりを告白する信仰行為です。私たちは、主日礼拝を通して、この世の価値観から解き放たれ、神の御国の現実へと招き入れられます。したがって主日礼拝は、習慣的な集会でも、個人的な満足の場でもなく、神の御前に立ち、御言葉と聖霊によって整えられる共同体的出来事です。

### 礼拝の流れと意味

礼拝の流れは、単なる順序や形式ではなく、福音の物語を身体と心で生き

るための霊的構造を持っています。礼拝は一般に、神の招き・悔い改めと赦しの宣言・御言葉の朗読と説教・応答としての祈りと賛美・派遣と祝福という流れをたどります。この構造は、神が語られ、民が応答し、再び世へと遣わされるという救済史的リズムを表しています。

説教は、単なる解説や励ましではなく、今も生きて働かれる神の御言葉の宣教(ケリュグマ)です。聖霊は、御言葉を通して、教会を悔い改めへと導き、キリストに似た者へと造り変えてくださいます。

## 聖礼典(洗礼・聖餐)

洗礼と聖餐は、キリストが教会に託された聖なるしるしであり、御言葉と結びついて、神の恵みを可視的に証しするものです。

### 洗礼

洗礼は、イエス・キリストを主と信じる信仰告白に基づき、キリストの死と復活に結ばれた新しい命への参与を示します。それは救いの条件ではなく、すでに与えられた恵みへの応答としてのしるしです。洗礼を通して、信じる者はキリストのからだである教会に加えられ、新しい生き方へと招かれます。

### 聖餐

聖餐は、主イエス・キリストの十字架の犠牲を記念し、復活の主が今も教会と共におられることを告白する食卓です。

パンと杯は、キリストの体と血そのものではありませんが、信仰をもって受ける者にとって、聖霊の働きによって真の霊的交わり場となります。

聖餐は、過去(十字架)、現在(主との交わり)、未来(主の再臨)を結びつける、教会の希望のしるしです。

### 祈りと霊的形成

祈りは、教会と信徒の霊的生命線であり、神との関係の中で形づくられていく生の営みです。祈りとは、願いを並べる行為にとどまらず、神の御心に

自らを一致させていく霊的訓練です。御言葉に聴き、沈黙し、悔い改め、執り成し、感謝と賛美をささげる中で、信徒は少しずつキリストのかたちへと形づくられていきます。霊的形成とは、短期的な成果を求めるものではなく、生涯にわたって続く、聖霊による変革の過程です。教会はその歩みを、共同体として共に担います。

## 教会暦

教会暦は、時間を単なる暦として消費するのではなく、神の救済の物語の中で生きるための霊的枠組みです。教会暦を大切にすることは、伝統に縛られることではなく、キリストの生と御業を中心に、信仰のリズムを整える知恵です。

## 受難節(レント)

主イエス・キリストの十字架への歩みを覚え、自己を省み、悔い改めへと招かれる時です。

## 復活節(イースター)

死に打ち勝たれた主の勝利を喜び、新しい命に生きる者としての召しを確認する時です。

## 聖霊降臨節(ペンテコステ)

聖霊の注ぎを記念し、教会が宣教へと遣わされたことを告白する時です。

## 収穫感謝主日

一年のすべての実りと歩みが神の恵みによることを感謝し、献身へと心に向ける礼拝です。

## 待降節(アドベント)

キリストの来臨を待ち望み、希望と悔い改めの中で心を整える時です。

## クリスマス主日礼拝(降誕主日)

神の御子が人となって来られた救いの出来事を喜び、インマヌエルの恵みを告白する礼拝です。

## 教会の組織構成

教会の組織は、効率や管理のために存在するのではなく、キリストのからだとしての教会が健やかに建て上げられるための奉仕の枠組みです。

新約聖書は、教会を一つの「からだ」にたとえ、それぞれの肢体が異なる賜物をもって互いに仕え合うことを教えています( I コリント 12 章)。したがって、教会の組織は上下関係ではなく、召しと奉仕に基づく機能的構造です。教会のすべての働きは、キリストを頭として、御言葉と聖霊の導きのもとに行われます。

## 牧師・教役者

牧師および教役者は、神の召しによって立てられ、教会から委ねられた働きに仕える者です。牧師の中心的使命は、御言葉を正しく宣べ伝えること、教会を牧し、霊的に導くこと、礼拝と聖礼典を司ることにあります。

牧師・教役者は、教会を支配する存在ではなく、キリストに倣って仕える僕(しもべ)として立てられています。教会は、祈りと信頼をもって、彼らの奉仕を共に支えます。

## 長老・勸士・執事・役員の仕事

役員は、教会の霊的・実務的仕事を担うために、共同体から選ばれ、祈りの中で任職される奉仕者です。

長老・勸士は、御言葉と祈りを中心に、教会の霊的健全さを守る責任を担います。教会の働きが円滑に行われるよう支えます。

執事は、教会運営において知恵と責任をもって仕え、共同体の一致を保つ役割を果たします。これらの職は、名誉や権威ではなく、謙遜と忠実さをもって果たされる奉仕の務めです。

## 各部の役割

教会の各部は、教会全体の使命を具体的に担うための仕事の単位です。それぞれの部は、独立して活動するのではなく、教会のビジョンと祈りの方

向性を共有しながら協力します。部の働きは、計画や成果以上に、神の御心を求め、互いに仕え合う姿勢が大切にされます。

## 奉仕の役割

奉仕は、特別な人だけの働きではなく、すべての信徒が召されている教会生活の一部です。神はそれぞれに賜物を与え、教会を建て上げるために用いておられます。奉仕への参加は、義務ではなく、神の恵みに応答する喜びとして受け取られます。祈りの中で導きを求め、自分に与えられた賜物と状況に応じて関わっていきます。

## 教育・訓練・交わり

### 教会学校(子ども・学生)

教会学校は、子ども・学生がイエス・キリストと出会い、信仰の基礎を築く場です。教育は、知識の伝達にとどまらず、神との関係の中で生きる力を育てることを目的としています。教会は、家庭と協力しながら、次世代の信仰継承に取り組みます。

### 信徒教育・聖書研究会

教育・聖書研究会は、信徒が御言葉を深く学び、信仰を理性と生活の両面で成熟させていくための場です。聖書は、単なる情報ではなく、生きて働く神の言葉として学ばれます。教会は、学問的誠実さと信仰的従順を両立させる学びを大切にします。

### 小グループ・交わり会

小グループや交わり会は、教会の共同体性が具体的に生きられる場です。そこでは、御言葉の分かち合い、祈り、証し、互いの重荷を担うことが行われます。教会は、孤立ではなく、共に歩む信仰を大切にします。

## 洗礼準備・信仰成長クラス

洗礼準備・信仰成長クラスは、イエス・キリストを主と告白する決断を、理解と確信をもって行うための学びの場です。洗礼後も、信仰は継続的に養われる必要があります。教会は、新しい信徒が教会生活に根づくよう、伴走的な学びを提供します。

## リーダー育成と学び

教会は、神が次世代の働き手を起こされることを信じ、意識的にリーダー育成に取り組めます。リーダーシップは、支配ではなく奉仕であり、キリストの姿に倣う生き方です。学びと実践を通して、信徒がそれぞれの召しに気づき、教会と世界に仕える者として整えられていくことを示します。

## 宣教と社会的働き

### 国内宣教・地域伝道

教会は、地域に遣わされた宣教共同体です。国内宣教・地域伝道は、教会の特別な活動ではなく、教会そのものの存在理由です。日常生活の中で、御言葉と愛をもって福音を証しし、地域に仕える教会を目指します。

### 海外宣教・宣教師支援

教会は、主の大宣教命令に応答し、世界に目を向けて祈り、支え、遣わします。海外宣教は、遠くの出来事ではなく、教会の信仰告白の具体的表現です。宣教師支援を通して、教会は一つのキリストのからだとして、世界の教会と連なります。

### 福祉・ケア・支援活動

教会の福祉・ケア・支援活動は、福音の具体的実践です。弱い立場に置かれた人々に寄り添い、共に苦しみ、共に希望を分かち合うことは、キリストの愛を生きる行為です。

## 次世代・家庭支援の取り組み

教会は、家庭を信仰の基盤として重視します。子育て、教育、介護、世代間の課題に向き合いながら、教会は共に祈り、支え合う共同体であり続けます。

## 地域社会との連携

教会は、地域社会から切り離された存在ではなく、共に生きる隣人です。行政、福祉団体、学校、地域の人々との連携を通して、教会は、神の愛と平和をこの地に証します。

## 2026 年間計画・行事

教会の年間計画は、単なるスケジュール管理ではなく、神の救済のご計画の中で、一年の歩みを整える信仰の営みです。私たちは、教会暦を土台としながら、礼拝・教育・宣教・交わりがバランスよく保たれるよう、一年の歩みを祈りをもって計画します。年間行事予定は、状況や導きに応じて柔軟に調整されますが、常に「神の計画の中を歩む教会」という信仰告白のもとで行われます。

### 1 月

- 1/4 新年感謝礼拝
- 1/5～7 在日基督教連合会宣教大会(つま恋リゾート彩)
- 1/12 信州祈り会
- 1/18 職員献身礼拝

### 2 月

- 2/2 市原のぞみ教会創立(開拓礼拝)に参加
- 2/22 創立 32 周年記念礼拝

※ 四旬節(受難節・レント) 2月18日(水)～4月4日(土)

3月

3/ ぶっとび子供キャンプ(聖山高原チャペル)

3/29 棕櫚の主日

※ 受難週 3月29日(日)~4月4日(土)

4月

4/4 子どもイースターフェスティバル

4/5 復活日(イースター)

5月

5/5 野外礼拝

5/14 昇天日

5/24 聖霊降臨日(ペンテコステ)

6月

6/2-3 日本カンファレンス・御茶ノ水クリスチャンセンター

7月

8月

子供サマーキャンプ

9月

9/ 90回 韓国教団総会

10月

10/ アジア太平洋宣教カンファレンス・開催地：タイ

11月

11/15 収穫感謝礼拝

11/23 本場キムチバザー

※ 待降節(降臨節・アドベント) 11月29日(日)~12月24日(木)

12月

12/19 子供クリスマス会

12/20 クリスマス礼拝とパーティー

12/31 送迎礼拝

特別礼拝

特別礼拝は、神の救いの御業を改めて覚え、教会全体で喜びと感謝をささげる大切な時です。教会では、次のような礼拝を大切にしています。

- ・新年礼拝
- ・イースター(復活節)礼拝
- ・ペンテコステ(聖霊降臨節)礼拝
- ・収穫感謝礼拝
- ・クリスマス礼拝

聖餐式を伴う礼拝(毎月第一主日)

聖餐式を伴う礼拝は、主イエス・キリストの十字架の恵みを覚え、その死と復活にあずかる者としての信仰を新たにする礼拝です。教会は毎月第一主日に、主が命じられた聖餐にあずかり、恵みによって生かされている共同体であることを確認し、主の再臨を待ち望みつつ歩む決意を新しくします。

研修会・キャンプ・集会

研修会・キャンプ・集会は、信徒が日常から離れ、御言葉と祈りに集中するための特別な学びと交わりの場です。教会では、霊的成長を目的とした子ども・学生向けキャンプ・特別集会・研修会などを通して、信仰を深め、召しを確認する機会を設けています。これらの集まりは、単なる行事ではなく、神が新しい一歩へと導かれる備えの時として位置づけられます。

## 教会主催イベント

教会主催イベントは、教会の内側だけに向けたものではなく、地域社会に開かれた福音的な出会いの場です。子ども会、季節のイベント、文化的催し、地域交流イベントなどを通して、教会は「敷居の低い場所」として存在します。

これらのイベントの目的は、集客や成功ではなく、人々が安心して集い、神の愛に触れる機会を提供することです。教会は、礼拝と日常生活、信仰と地域社会を結びつける橋として、これらの働きを大切にしています。

## 教会生活の実際

### 信徒の責任と恵み

信徒であることは、義務や資格によって与えられるものではなく、神の恵みによってキリストのからだに加えられた結果です。

信徒は、礼拝に忠実に集うこと祈りと御言葉の生活を大切にすること、教会の交わりと一致を保つこと、賜物をもって教会に仕えることを通して、共同体の一員として歩みます。これらは重荷ではなく、キリストにあって与えられた恵みに対する喜びの応答です。教会は、完全な人々の集まりではなく、赦され、支え合い、共に成長する者たちの群れです。

### 献金・財務の考え方

献金は、教会運営のための資金集めではなく、神への礼拝と信仰告白の一部です。聖書は、献金を強制ではなく、「喜んでささげる心」に基づくものとして教えています。教会は、献金を通して、礼拝・宣教・教育・牧会・社会的働きが支えられていることを覚え、誠実で透明性のある財務管理を大切にします。

### 教会施設の利用案内

教会施設は、教会員だけのものではなく、神から委ねられた働きのための器です。礼拝、教育、交わり、祈り、また地域に開かれた働きのために用いら

れます。利用にあたっては、互いへの配慮と感謝をもって、施設を大切に管理します。

### 個人情報・安全配慮について

教会は、一人ひとりの尊厳と安全を守ることを大切にします。

個人情報は、教会活動に必要な範囲に限って適切に管理され、第三者に無断で提供されることはありません。また、子ども・高齢者・弱い立場にある方々の安全確保のため、必要な配慮と予防的対応を行います。

### 週報・連絡手段の案内

教会からの連絡は、週報、掲示、口頭案内、必要に応じて電子的手段を用いて行われます。教会は、情報伝達を単なる事務連絡ではなく、交わりを支える大切な働きとして位置づけます。

## 教会アクセス

〒395-0807 長野県飯田市切石 3883-4 0265-56-8286

カウンセリング電話 080-1207-0783

### ◆ お車をご利用の場合

中央自動車道「飯田IC」より約10分 ※教会敷地内に駐車場があります。

### ◆ 公共交通機関をご利用の場合

JR 飯田線「切石駅」下車、徒歩約15分

路線バスをご利用の場合は、最寄りのバス停から徒歩数分

### ◆ ご案内

初めて来られる方や道に迷われた場合は、どうぞお気軽に教会までご連絡ください。

